

# 成果報告書

2016 年度 湘南藤沢学会 「研究助成金」

総合政策学部 4 年 木村紀彦

## 【活動名称】

国際学会Pattern Languages of Programs 2016でのワークショップ「Creating Future Vision of the Creative Society Where Pattern Languages are Used」の実施と、国際学会2016 International PUARL Conferenceでの「The Future Vision of Productive City Where Pattern Languages are Used」の発表。

## 【日程／場所】

- 国際学会 Pattern Languages of Programs 2016
  - 10月23日～10月26日／Robert Allerton Park and Conference Center
- 国際学会 2016 International PUARL Conference
  - 10月28日～10月30日／University of San Francisco

## 【目的】

本活動は、理想の未来を言語化する「フューチャー・ランゲージ」の方法を用いて制作した「パターン・ランゲージが使われている社会の未来ビジョン」の研究発表とワークショップを国際学会で行い、そのなかでさらにアイデアやフィードバックを得ることを目的とする。

創造行為を支援する方法であるパターン・ランゲージは、建築・都市デザイン、ソフトウェア開発、そして教育・コラボレーション・料理・介護といった様々な領域の人間活動のデザインにも応用されている。パターン・ランゲージをさらに社会実装していくためには、各領域でパターン・ランゲージをつくるだけでなく、パターン・ランゲージによって社会がどのように変わるのかという「社会の未来ビジョン」をもとに、領域を超えてこれからのパターン・ランゲージ研究・活用について考えたり議論したりする必要がある。

そこで本研究では、理想の未来を言語化する「フューチャー・ランゲージ」の方法を用いて、「パターン・ランゲージが使われている社会の未来ビジョン」をつくる。これまで既にこの方法を用いて7回のインタビュー及びワークショップを行ってきた。本活動では、パターン・ランゲージ研究の主要な国際学会であるPattern Languages of Programs（以下 PLoP）でワークショップを実施、国際学会2016 International PUARL Conference（以下 PUARL）にて研究発表を行い、そこでさらなるアイデアやフィードバックを得る。

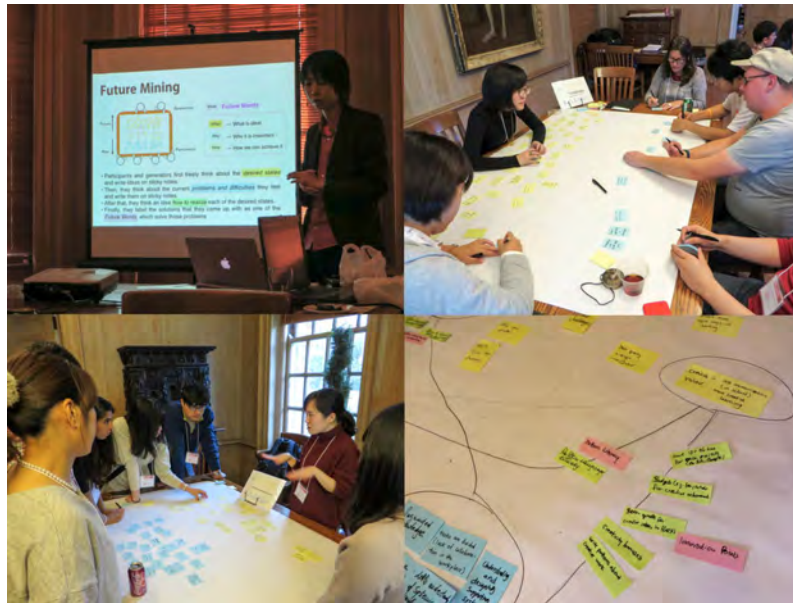
## 【成果】

PLoPでは、"Creating Future Vision of the Creative Society Where Pattern Languages are Used" というタイトルで、「パターン・ランゲージが使われている社会の未来ビジョン」を考えるためのフューチャー・ランゲージワークショップを実施した。

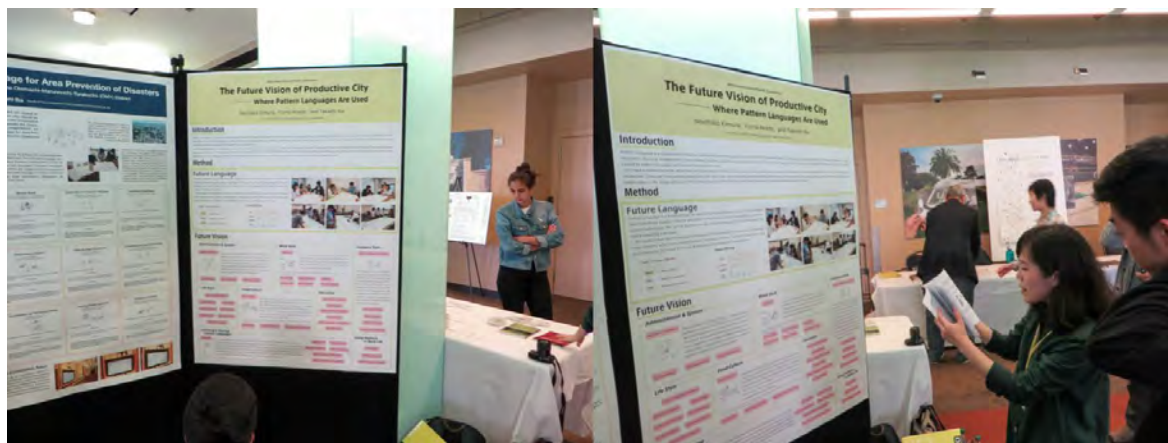
このワークショップでは、色違いのポストイットにそれぞれ、未来の理想・現状の問題・理想の実現方法あるいは問題の解決方法を、ブレインストーミングでアイデア出していく。

そして、その方法を表す言葉（名前）をフューチャー・ワード（以下FW）として表現する。FWをつくることで、理想の未来について考えたり、対話することが可能になる。

今回のワークショップでは、2グループ（各約6人）に分かれて行った。参加者は主にソフトウェア系の研究者や実務家で、その視点からのアイデア、FWが生まれた。たとえば、未来ではもっと多くの分野でパターンが開発されて人々の創造行為を支えるようになる。そこで、全てのパターン・ランゲージをオンライン上で閲覧できるようなアイデアが生まれ、「Pattern Library」というFWがつけられた。



PUARLでは、これまでに日本で同テーマで実施してきた生まれたFWをまとめた発表を行った。PUARLはパターンランゲージを用いた建築・都市デザインの学会で、発表したFWをどのようにしたら建築・都市に実装できるかをディスカッションできた。



今後はPloPで生まれたFWや、PUARLでディスカッションした内容を踏まえて、来年の学会でそれぞれのFWをどのように実現できるかという、より具体的な実現に向けてのワークショップを行いたい。